

あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター

住所：名古屋市中区三の丸3-2-1
愛知県東大手庁舎1階

TEL：052-954-6722

FAX：052-954-6993

開館：月曜～金曜 10時～17時



(交流会・「ふれあいひろば小牧」にて 絵：かねもり あい 兼森 みほり)

募集中！

《表紙の絵/作品/写真》

- ①絵/作品/写真のタイトル
- ②簡単な説明
- ③掲載する氏名またはペンネーム、年齢
- ④連絡先（氏名、メールアドレスまたは電話番号）を明記のうえ、メールまたは郵送にてお送りください。

●E-mail：
aozora@aichi-shien.net
メールフォーム➡



《あおぞら編集委員》

編集会議は、掲載内容を決めたり、記事を書いたりするだけではありません。日々の暮らしや関心事など、話題に富んだ情報交換の場にもなっています。興味のある方はお問い合わせください。

《もくじ》

表紙絵/募集中・・・・・・・・・・・・・1
甲状腺エコー検診&交流相談会/参加者・
ボランティアの感想・・・・・・・・・・2～3
インタビュー/7月イベント情報・・・・・・・・4

甲状腺エコー検診&交流相談会

6月2日(日)に一宮市の千秋病院で、甲状腺エコー検診&交流相談会を愛知県民主医療機関連合会と愛知県被災者支援センター共催で開催しました。甲状腺検診は13世帯29名が受診され(うち5世帯10名新規受診)、交流相談会には17世帯33名の参加者がありました。医療スタッフは医師・検査技師・放射線技師等20名、その他のスタッフとして在宅保健師、司法書士、ボランティア等25名が参加しました。



【甲状腺エコー検診の流れ】〔受付〕 ⇒ ⇒ 〔エコー検査〕 ⇒ ⇒ ⇒ 〔医師の説明・健康相談〕



<交流相談会の昼食風景>



<甲状腺勉強会>

○甲状腺エコー検診&交流相談会に参加して(参加者寄稿)

6月2日に家族で、一宮市の千秋病院で行われた「甲状腺エコー検診&交流相談会」に参加しました。8年前、私達家族は福島県郡山市に住んでおりましたが、震災の数日後に、私と当時1歳の長男は、愛知県の私の実家に自主避難をしました。主人は仕事もあり、自宅も新築したばかりだったため、郡山に残りましたが、震災の2年後に愛知に来てくれて、また家族で暮らせるようになりました。私の意思を尊重して、大きな決断してくれた主人と、色々負担をかけてしまった双方の両親には、どれだけ感謝してもしきれません。

今回の検査では、震災後に生まれた次男を除く、3人でエコーを受診しました。震災直後は放射能漏れの情報がなかったため、小さい長男を連れて屋外の給水の列に長時間並んだことが、悔やまれます。

長男は、4年前の名大医学部でのエコー検査以来でしたが、成長とともに結果も変わってくるので、今後も継続して受診する必要があると感じました。

交流会では、子ども達を託児で預かっていただいたため、大人だけでゆっくり落ち着いてお話しすることができました。子ども達は、おもちゃ作りを体験させてもらい、自宅に帰った後も、自分たちで作ったお気に入りのおもちゃで毎日遊んでいます。

また、司法書士、支援センター、県の職員の方々がいらっしゃったおかげで、ADRについてスムーズに相談することができました。

交流会は久々の参加でしたが、支援センターの方々は変わらず温かく寄り添ってくださり、皆様に支えられて今の生活があるのだと感じた1日でした。本当にありがとうございました。(Y・K)

○参加者の声(アンケートより抜粋)

- ・大変丁寧に見ていただけて、驚きました。同時に感謝です。今後も長く続けていただけたらと思います。
- ・初めて甲状腺エコー検診を受診しました。たぶん大丈夫だろうと思っていました。受診して、先生から結果を伺って安心しました。“安心”ということは、とっても大切です。
- ・前回結節があったとのことでしたが、今回は見られなかったよし、少し安心。
- ・「元気だった？」―「元気そうだね」と会話できることがうれしいです。
- ・避難者の方々が集うための準備には、普段考えない配慮などがたくさんだったと思います。ありがとうございます。お弁当への配慮は、昔よりすばらしかったです。



<託児で楽しい工作>



<交流会でビーズ細工>

○ボランティア学生が感じたこと

本田奈々子(愛知淑徳大学・心理学部4年)

被災された方から直接お話を聞くことは初めてで、原発や震災のことを詳しく知らない私にとって最初は戸惑いました。お話を聞いていくうちに、出身県や年齢によって一人ひとり思いが違うことを知りました。また避難先での経験や、同じ出身県の仲間がいないという悩みを話してくださる方もいて、「避難者」という一括りではなく、個人の想いや悩みを聞くことが何より大切だと思いました。

佐藤友紀(愛知教育大学・臨床福祉心理コース4年)

今回初めての参加で緊張していましたが、温かい雰囲気の中でたくさんの方とお話をさせて頂くことができました。被災された方々の経験されてきたことや不安に感じていることは、一人ひとり異なるということを実感し、交流相談会はそれらを共有したり、相談するための重要な場であることを学びました。避難先の愛知県では、周囲に同じような経験をした方が多くはなく、心配事を共有できる場も

私は大学で心理学を専攻し、将来はカウンセラーを志望しています。今回の交流会ではソーシャルワーカーや保健師、被災者支援センターの方々の多面的な支援を見て、心理職も支援一つの選択として、他の支援者の方々と協力していかなければいけないと感じました。また大学での卒業論文で、避難者の方の繋がりについてテーマにする予定です。今回の経験を研究に繋げて、皆さんがよりよい生活を送れるようにと願っています。たくさんの貴重なお話をありがとうございました。

少ないのではないかと思います。そのためこのような交流・相談ができる場が、被災された方にとって安心できる居場所として広がっていくとよいなと思いました。一方で、自分自身、東日本大震災や福島原発事故について知らないことばかりであることも痛感しました。今回の参加をきっかけに、震災や復興についての情報に敏感になり、自らも考え続けていかなければならないと感じました。

インタビュー・千葉妙子さん（名古屋市熱田区 岩手県山田町から避難）

インタビュアー：仲田法子（支援センタースタッフ）



5月12日(日)に東海市しあわせ村にて「岩手宮城・気軽にお茶飲み交流会」が開催されました。毎回参加されている千葉妙子さんにインタビューするためにお宅をお訪ねしました。交流会で作ったコースターを「家にも材料があるのでもう一度作ってみたい」と早速材料を出してこられたので、一緒に作りながらお話を伺いました。

千葉さんは震災当時、津波で押し流されて無意識に木材にしがみつき、ずぶぬれの状態で助けられたそうです。一カ月間避難所の武道館で過ごし、気仙沼のお姉さん宅を経て、娘さんのいる名古屋の市営住宅に避難され、現在に至ります。避難所での「具の入っていない味噌汁の美味しい味は忘れることができない」「ありがたいのは人」と、当時のことは語りつくせない様子でした。

交流会の度に言われるのは「名古屋は福祉が整っていて住みやすい」ということ。「自宅に月1回訪問してくれる係の人がいる。毎週金曜日は社会福祉協議会(地域包括支援センター)から見守りの電話が入る。毎月1回お茶飲み会があり、いつも来ている人が来ないと「あの人どうしたの?」と気遣う声があがる」と。

また、東京にいる息子さんからはしばしば様子伺いの電話が入り、名古屋にいる娘さん家族とも会うことができ、「のんびり美味しいものを工夫しながら作って暮すのが一番!」という。だけど最近は足腰が弱く、「いつまで生きられるのかしら（現在80歳）」と思う時もあるとのこと。交流会も「だんだん出席者が少なくなりさびしくなってきたが、まだまだ続くよう願っている」とも言われていました。「津波ですべてのことを失ったけど生きていることに感謝し一日一日を大事に」生活されている千葉さんの笑顔が印象に残りました。私も千葉さんに会えて感謝です。ありがとうございます。

7月イベント情報

開催日	イベント名	内容（主催）	最寄駅
7日(日)	ふれあいひろば小牧 (第20回)	みんなでカレーライスを作り、 近況報告・交流します。初めての 方もどうぞご参加ください!	名鉄小牧線小牧駅から①徒歩15分 ②バス岩倉駅行・小牧市役所 徒歩3分
20日(土)～ 21日(日)	めぐりあい交流キャンプ 2019	名古屋キリスト教社会館の野外 活動センター（岐阜県郡上市） で、野外炊事、キャンプファイヤー、 川遊びなどを親子で楽しむ。	原則は「発達センターあつた」に集合し、マイクロバスで移動。

※イベントの一部を掲載しています。その他のイベントや申込先などの詳細はチラシをご覧ください。

- ・推定樹齢20年のオリーブにたくさん実がついてくれました。5月は午前中にいっぱい蜂がやってきて盛んに蜜を吸っていました。羽音が怖い位でしたが、自然の恩恵に感激しています。(S.Y)
- ・去る4月、福島県三春町の滝桜見物に行きました。大きな枝垂れ桜はつぼみでしたが、町の至る所に満開の枝垂れ桜。そこで一首：「三春町 至る所に桜あり お目当て見ぬが 熱意が嬉し」(T.H)
- ・今度は新潟・山形の地震。狭い日本、どこにも安全な所はない。教訓と現実の備えで揺れ動く。(T.K)